

2026年3月期 決算説明資料

2026年5月22日
株式会社イーディーピー
東証グロース（証券コード：7794）

第二の創業期における再成長イメージ

2026年3月期

2027年3月期

2029年3月期

主要な経営テーマ

- 海外拠点の運営を軌道に乗せる。
- デバイス関連連携の開始

長期的な方針案

ダイヤモンドデバイス実用化を素材で支援 宝石、宝飾品の本格的な販売

具体的取組み

- SFD India、SFD Antwerpの運営開始
- 独自性のある宝石宝飾開発と製造～販売体制構築
- 1インチ単結晶ウエハ販売、2インチモザイクウエハ開発

- **大型ウエハの開発と販売**
 - 2インチ～4インチと先陣を切る
 - 積極的な外部との連携と規格化の推進
- **Japan Made Diamondのブランド化戦略**
 - サプライチェーン構築
 - 新規デザイン、ネーミング

今後目指す姿

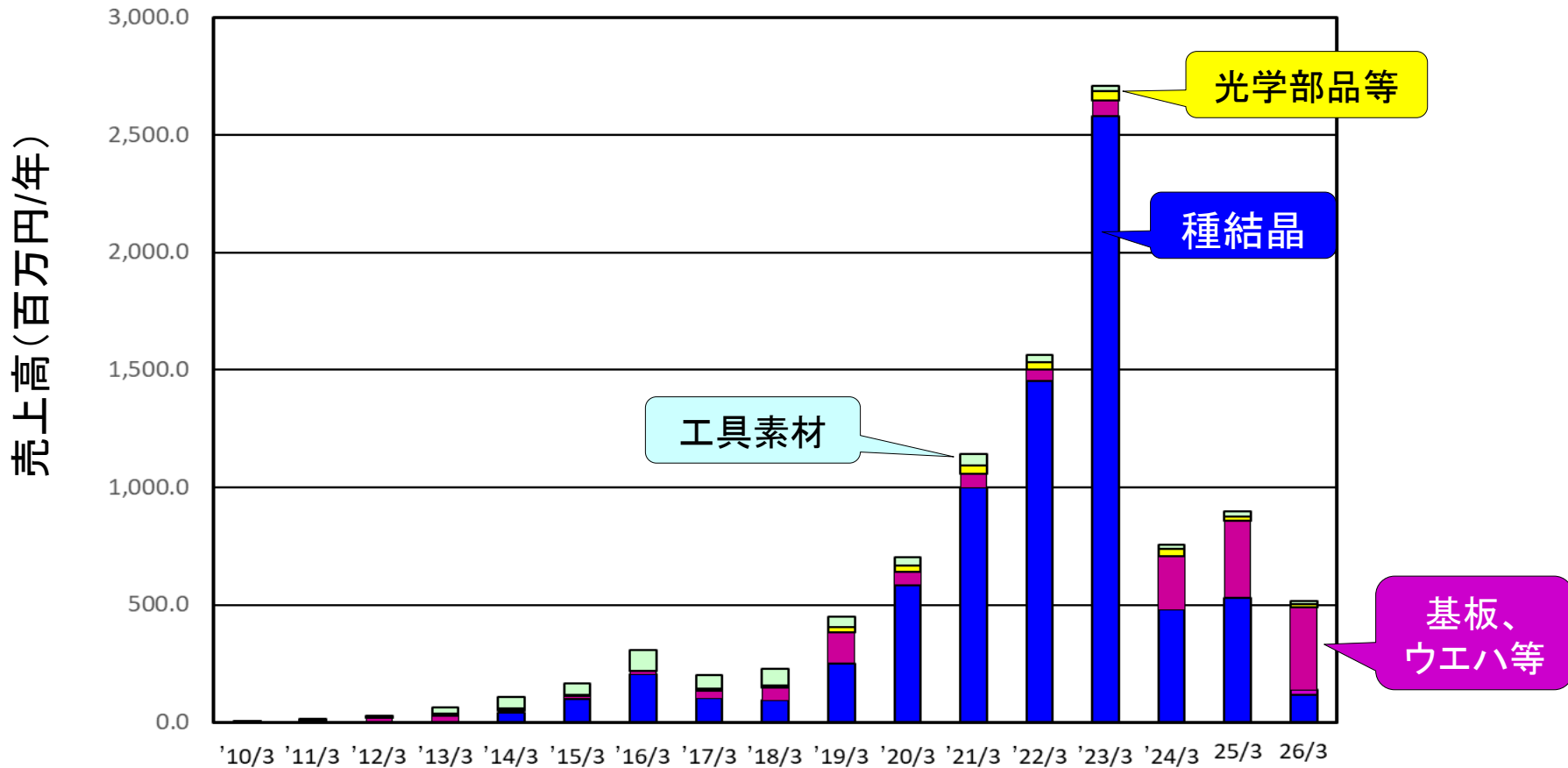
ウエハ量産体制の確立
デバイス開発を支援する多様なエピ、基板要求に対応

新規デザインの宝石を販売
大手宝飾店や服飾ブランドへの参入


収益戦略

- 受注状況に応じたコスト削減
- 資金調達の継続
- 新たな資金調達の検討を開始
- 連携先と共同で公的支援の獲得

創立からの売上推移



種結晶は24/3期から市場の変化で、売り上げが激減
26/3期は貿易管理令改正の影響もあり低迷。



2026年3月期

決算概要

2026年3月期決算サマリー

- SFD Indiaでの種結晶販売がほとんど実行できず、基板・ウエハは大幅に売上が増加したものの、合計では大幅な売上低下。
- 受注状況により工場の部分的な休止を含めた対応をとったものの、各種の委託費等が増加したこともあって、売上の減少を補えず。
- 1,300百万円の減損会計と、連結子会社の負債を消去し、純損失は2,441百万円。

(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	
	実績 【連結】	実績 【連結】	前年同期比 増減額 (増減率)
売上高	902	516	△386 (△42.8%)
営業利益	△976	△1,360	△384 (-)
経常利益	△989	△1,341	△351 (-)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△2,306	△2,415	△109 (-)

四半期ごとの製品別売上及び損益

- 種結晶は前年初頭からの小型宝石の大幅な価格下落の影響が継続しているが、売上高は横ばいの状態
- 基板・ウエハは国内の自動車関連企業、ダイヤモンドデバイスベンチャー企業や大学からの受注を獲得し、売上高は増加
- 製造コスト削減を進めたが、在庫評価損及び減損損失の計上で、大幅な損失

(百万円)

	2025年3月期【連結】					2026年3月期【連結】				
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
売上高	237	198	217	250	902	32	105	115	263	516
種結晶	170	119	119	123	531	10	20	20	67	117
宝石等						0	1	6	15	22
基板・ウエハ	57	67	86	119	329	19	79	79	173	350
光学部品等	4	1	4	5	14	1	4	7	5	17
工具素材	5	10	7	4	26	2	2	3	3	10
営業利益	△ 174	△ 372	△ 194	△ 235	△ 976	△ 263	△ 244	△ 446	△ 406	△ 1,360
経常利益	△ 158	△ 414	△ 149	△ 267	△ 989	△ 275	△ 227	△ 441	△ 398	△ 1,341
当期純利益	△ 162	△ 413	△ 149	△ 1,581	△ 2,306	△ 276	△ 228	△ 1,508	△ 403	△ 2,415

注) △は損失を示しています。

貸借対照表

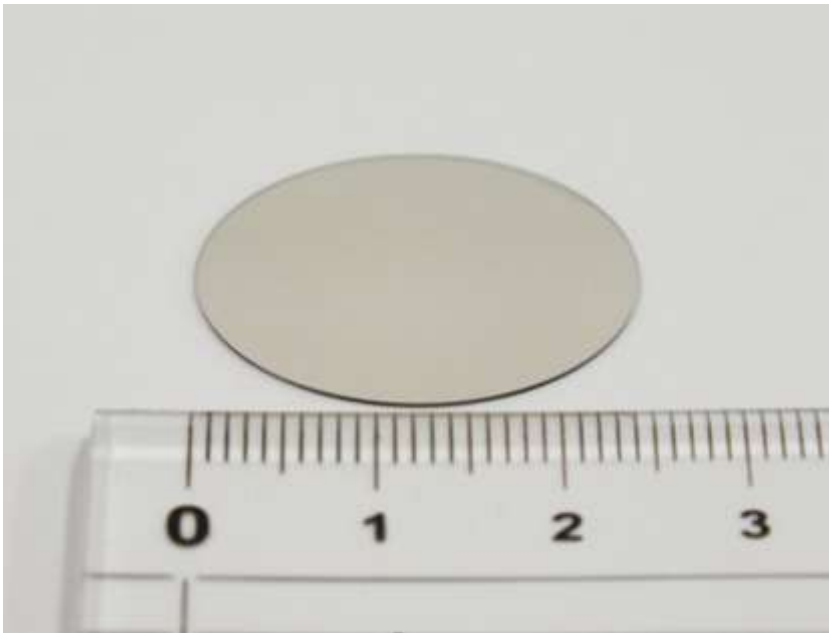
(百万円)

	2025.3期 【連結】	2026.3期 【連結】	増減	主な増減要因
流動資産	2,721	1,924	△797	現金及び預金△616 商品及び製品△83
固定資産	1,655	585	△1,069	投資その他資産△34 有形固定資産△1,014
総資産	4,377	2,510	△1,867	
流動負債	354	321	△32	1年以内返済予定の長期借 入金△19 未払金+31
固定負債	604	479	△125	長期借入金△135 リース債務+3
負債合計	958	800	△158	
純資産合計	3,418	1,709	△1,709	資本金+358 資本剰余金+358 利益剰余金△2,415
負債・純資産合計	4,377	2,510	△1,867	
自己資本比率	78.0%	68.1%	△9.9%	

1インチウエハを発売しました

- ダイヤモンド半導体の進化に不可欠である大型ウエハ開発に向けた第一歩
- 2インチウエハの開発ロードマップが明確になって来た

2025年4月、1インチウエハの発売

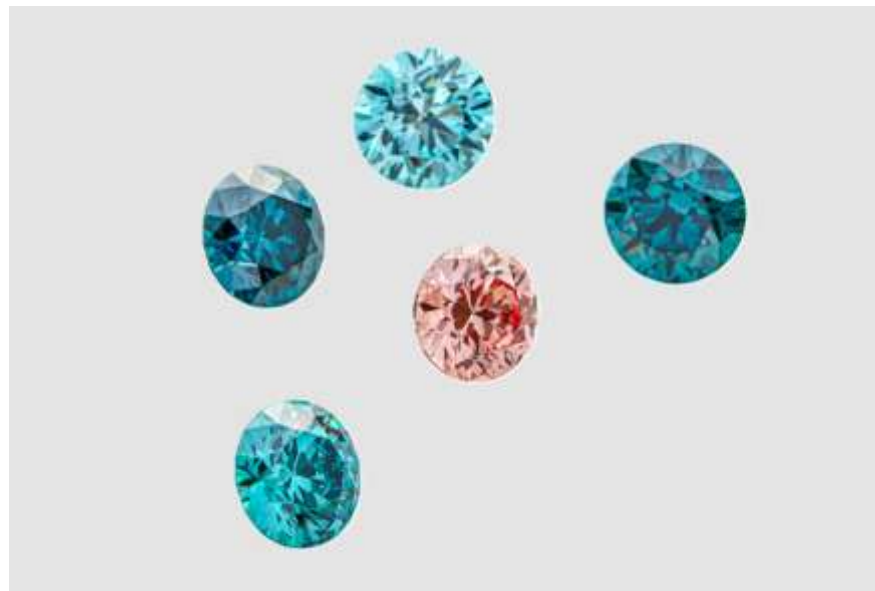


1インチ単結晶ダイヤモンドウエハ

- 2インチウエハの実用化を目指す開発の第1歩として、30x30mmの単結晶を発売し、1インチウエハ（直径25mm）も製品化した。
- 2インチモザイクウエハの開発に着手したが、年度内には完成できなかった。
- 本田技研との共同研究を進めるべく、意向契約を締結した。

カラーダイヤモンド宝石の販売を開始しました

- まずは代表的なカットであるブリリアントカットの宝石から販売を開始。
- 新規のデザインの宝石や、Japan Made Diamondをアピールポイントとして、国内での販売活動を実施。
- ブルーやピンクのカラーダイヤの製作が可能となり、販売を開始。



2026年1月 SFDが東京国際宝飾展に出展





2026年度中期経営計画は立案作業中

長期的な成長戦略の考え方

- ▶ デバイス開発の進展に対応した大型ウエハ等の新製品開発で、市場創生を期す
- ▶ LGD分野、基板・ウエハ分野の開発投資を目的に資金調達を実施

中期経営計画は立案中であり、成長戦略の考え方は以下の通り

	検討中の成長戦略	
	デバイス関連製品	ラボグロウンダイヤモンド関連製品
方針	<ul style="list-style-type: none"> ○2インチ～4インチウエハ製品化を確実に進め、ダイヤモンドウエハ市場を創出する。 ○各種のデバイスに対応した技術開発でデバイス開発企業、機関を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○LGDの世界的な拡大に遅れず進む。 ○Japan Made Diamondのブランド化戦略を推進し国内外の販売体制を構築する。
戦略	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ユーザー各社、機関との連携で、課題の迅速な解決と、将来の規格を目指した国際的な組織作りを進める。 ◆ 量産時のデバイス生産コストを意識し、適合できる価格のウエハ製造ラインを構築する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 当社原石を生かす新規デザインの宝石や、カラーダイヤ等により、他とは差別化できる宝飾品の開発。 ◆ インドにおける種結晶販売を再活性化
今期取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 2インチモザイクウエハの量産体制を確立 ● 50x50mm単結晶の開発を急ぐ ● 4インチウエハの製作に必要な要素技術を、2年以内に確立すべく、開発を開始。 ◆ 低抵抗ダイヤモンドの大型ウエハ実用化に向けて、基礎的な検討を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 原石～宝飾品までの当社独自のサプライチェーンを構築 ● ECを用いた販売によって、国内外での認知度を高める。 ● 20x20mm等の大型種結晶の販売を進め、将来の主要製品としての地位を明確化する。

資金調達の状況と投資の状況

- 2026年3月期累計で新株予約権の行使によって、707百万円の資金調達を実施
- ウエハ、基板の生産設備増強、海外を含めた宝石ビジネスに投資した。

● 資金調達の状況

(百万円)

	2026年3月期				
	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第4四半期 実績	年度累計 実績
新株予約権による ファイナンス	52	46	0	609	707
借入	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	52	46	0	609	707

● 投資の状況

(百万円)

具体的な内容	金額	投資設備の稼働時期
基板等増産投資	110	2025年度上期～2025年度下期
宝石ビジネスの基盤 構築	250	2024年度下期～2025年度下期

EDPグループの長期的な方針

- 中期計画は現在検討中であり、可能な限り早く開示できるように対応中。
- デバイス開発の進展で、当社のダイヤモンド素材市場は多様化するが、これに対応すべく他社との連携を強化する。
- 資金調達を進めるとともに、連携する企業や公的支援を獲得する。

(百万円)

		2026年3月期 実績【連結】	中期経営計画【連結】		
			2027年3月期 26/5開示の予想	2028年3月期	2029年3月期
売上高		516	1,100	—	—
LGD関連	種結晶	117	527	—	—
	宝石等	22	73	—	—
デバイス関連		350	463	—	—
その他		27	37	—	—
営業利益		△1,360	△283	—	—
経常利益		△1,341	△189	—	—
当期純利益		△2,415	△195	—	—

注) △は損失を示しています。

基板・ウエハビジネスの外部環境

◆ パワーデバイス、量子デバイスの実用化に向けた動き

- EVのパワーデバイスとしての応用は、大電流を扱うことが可能性が高まっており、当社は本田技術研究所と共同研究を進める合意書を締結した。
- 量子センサーが弱磁場の検出に有効であることが示され、心磁場や血流計測等の医療応用の可能性が高まっている。
- 量産が視野に入っている分野からは、2インチ~4インチウエハの製品化要請が強くなっている。

◆ 世界各地のベンチャー企業の活動

- 日米欧豪にてデバイス系のベンチャーが登場し、公的な支援も得て製造ラインを構築している。
- パワーデバイス、放射線センサー、量子コンピューター、磁気センサー等、開発中のデバイスが多様化しており、資金調達も大規模になってきた。

◆ 政府および公的支援

- 各国政府等によるダイヤモンドデバイス開発プロジェクトが立ち上がり、企業や大学、公的研究所に相当な資金が投下されている。

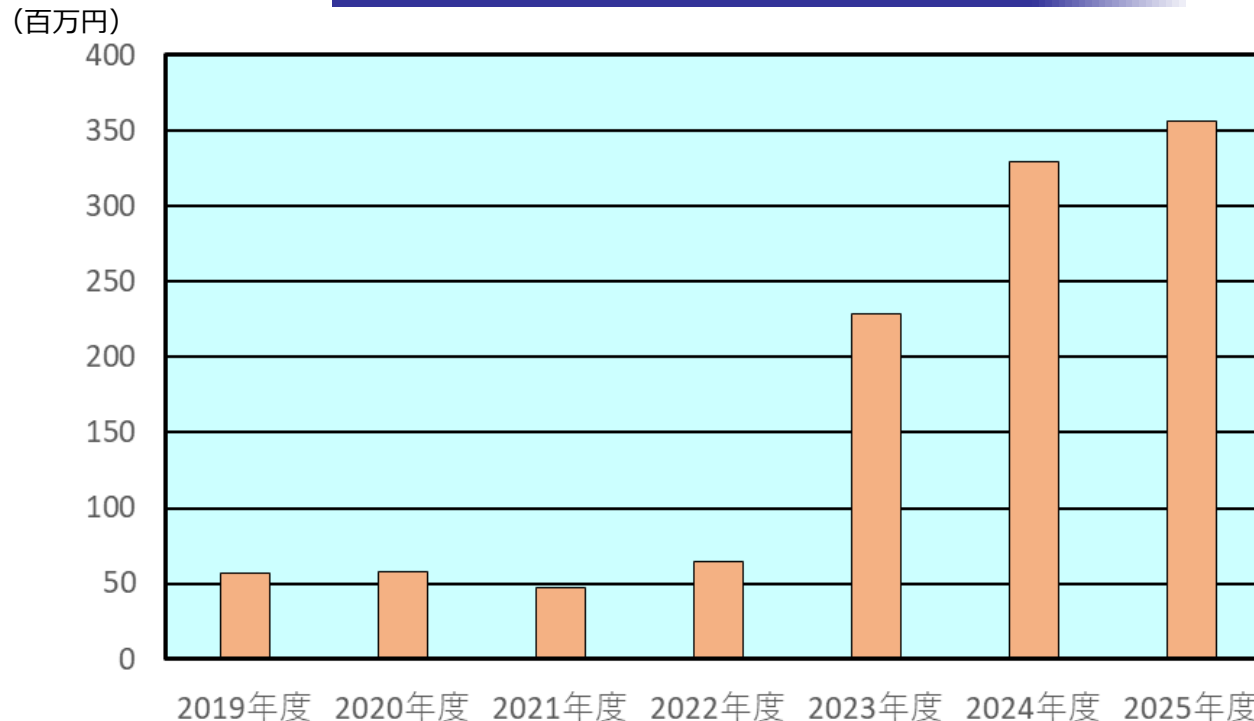
◆ 新しい応用へ向けたダイヤモンド素材の要求

- 既存半導体材料と扱いが違い、製造プロセスも旧来の経験が必ずしも役に立たない場合もある。新しい視点でダイヤモンドデバイスの実用化を支援する技術開発が必要となっている。
- 規格化、ISOの制定等、ビジネス環境を整える取り組みが要請されている。

当社の基板・ウエハビジネスの状況

- 2026年3月期まで3年連続で売上が増加した。
- 欧米及び日本の開発を手掛ける企業、研究機関が増加し、顧客数が増加するとともに、要求は多様化している。
- 各国の研究開発への支援が強化され、実用化に向けて大型ウエハの製品化がネックと認識されている。

基板・ウエハの売上高推移



ウエハ開発における当社の位置づけ

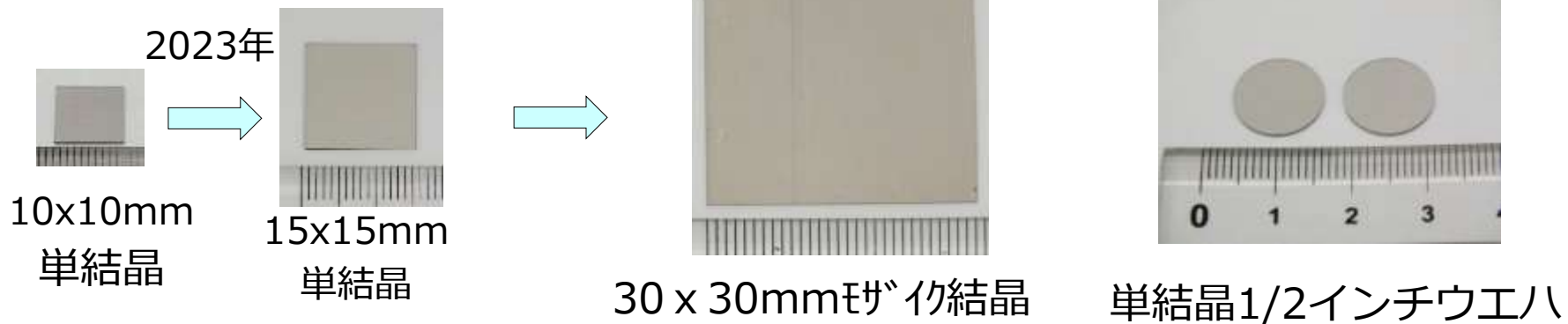
- ◆世界最大の30x30mm単結晶を開発し、1インチウエハを製品化済み。ダイヤモンド成長技術、成長した単結晶の親結晶からの分離技術、大型結晶の研磨技術等を保有しており、早期実用化を各社から期待されている。
- ◆パワーデバイスから量子デバイスまで、各種デバイス開発で要求される素材を網羅的に販売。世界で唯一の総合的なダイヤモンドデバイス用素材メーカー。
- ◆2インチ～4インチウエハの開発に向けたロードマップを提示し、ユーザーのデバイス量産への計画策定を支援。
- ◆将来のウエハ規格化を検討しており、広く利用できる環境を整えるために、業界団体などと協力する。

当社のダイヤモンドデバイス開発用の製品

多様な応用展開に向け、各種の基板・ウエハ・エピ層を商品化

開発分野	製品名	内容
基礎研究用基板	小型単結晶基板	3x3~9x9mm基板
	大型単結晶基板	10x10~30x30mm単結晶
	オフ角基板	基準面から0~5°した傾斜基板
横型デバイス用基板	高品質基板	低FWHMの欠陥が少ない基板
	低B濃度エピ基板	高移動度p ⁻ エピ層付き基板
パワーデバイス用基板	低抵抗基板	高B濃度p ⁺ 自立基板 (<13x13mm)
	高B濃度エピ基板	高B濃度p ⁺ エピ層付き基板 (<18x18mm)
量子デバイス用基板	(111)基板	窒素濃度<8ppm
	低N濃度(111)基板	窒素濃度<0.5ppm
	高N濃度基板	窒素濃度10~20ppm
各種エピ層	p ⁻ /p ⁺	低Bエピ層/高Bドープ基板
	i層/Nドープ基板	ノドープエピ層/Nドープ基板
量産テスト用ウエハ	ハーフインチウエハ	12.5mm Φ x 0.25mm
	1インチウエハ	25mm Φ x 0.3mm (近日中商品化)
	モザイク基板	38x38mm以下の正方形もしくは丸形

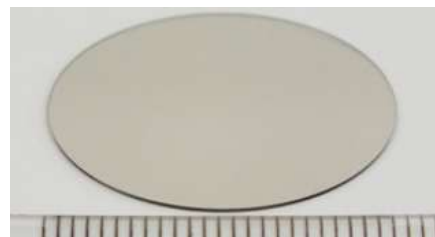
2インチウエハへのロードマップ



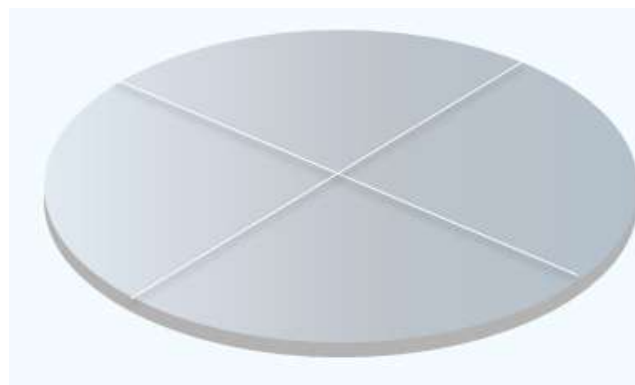
2025年
2月発売



30x30mm単結晶



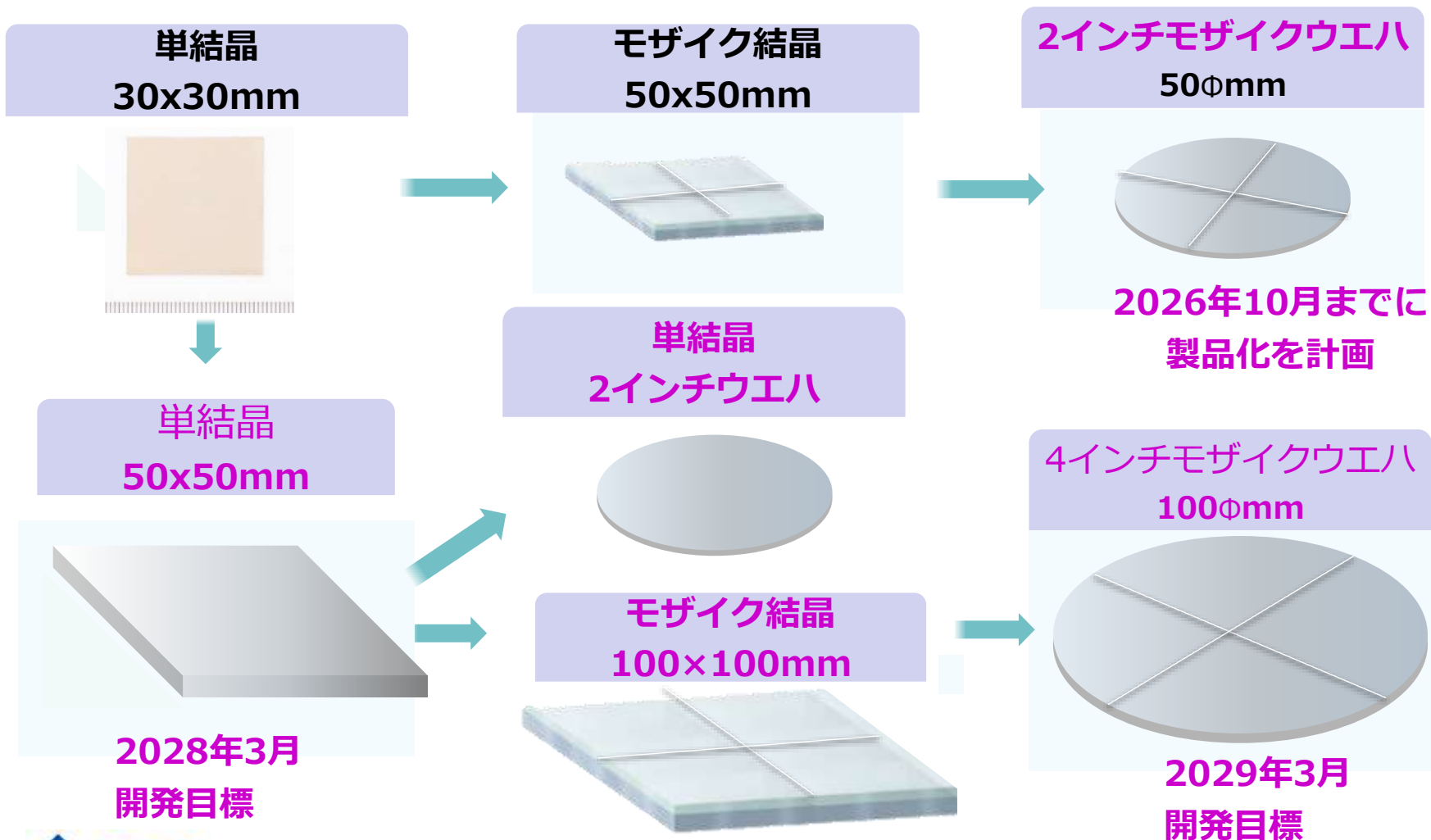
1インチウエハ
2025年4月発売



2インチ
モザイクウエハ
2026年10月製品化
目標

2インチ~4インチウエハへのロードマップ

- 単結晶の大型化とその単結晶を使ったモザイクウエハ開発で大型ウエハを実現する。デバイス開発に先行できるように、開発スピードを重視する。



ウエハ、基板分野の本年度の進め方

- ◆本田技研との共同研究契約を締結し、EV等のパワーデバイスとしての応用に向け、必要な素材の開発を急ぐ。
- ◆2インチモザイクウエハの量産技術を確立し、本格的なウエハ市場の形成に向けて、ユーザー各社との連携を強化する。
- ◆50x50mm単結晶開発を進め、4インチウエハの実現を目指し、様々な手法を検討する。4インチウエハ実現に必要な各種の製造装置開発も進める。
- ◆欧米でも政府支援が活発化し、需要が拡大している。営業体制を整備し、積極的な展開を図る。

ラボグロウンダイヤモンド(人工宝石)とは

- 約10年前から普及が始まり、現在ではダイヤモンド宝石市場の30%以上が置き換わり、宝飾店やネット経由で流通している。

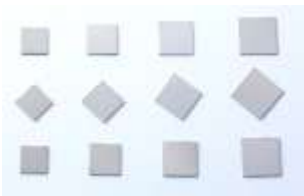
ラボグロウンダイヤモンドの特長

- ① 天然ダイヤモンドと比較して、高純度で大型品が製作できる
- ② 天然ダイヤモンドと比較して同グレードなら安価で、価格競争の観点で優位
- ③ 環境負荷が低く、SDGsの観点で優位
- ④ 従来の形態にとらわれない新しいデザイン可能

※LGD：人工ダイヤモンド宝石、Laboratory Grown Diamondの略称

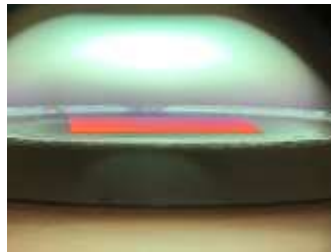
LGD完成までの流れ

① モザイク結晶素材



0.3mm厚種結晶

② プラズマCVDで成長



3mm厚に成長

③ 成長した原石



宝石サイズごとの厚さに成長

④ 完成したLGD

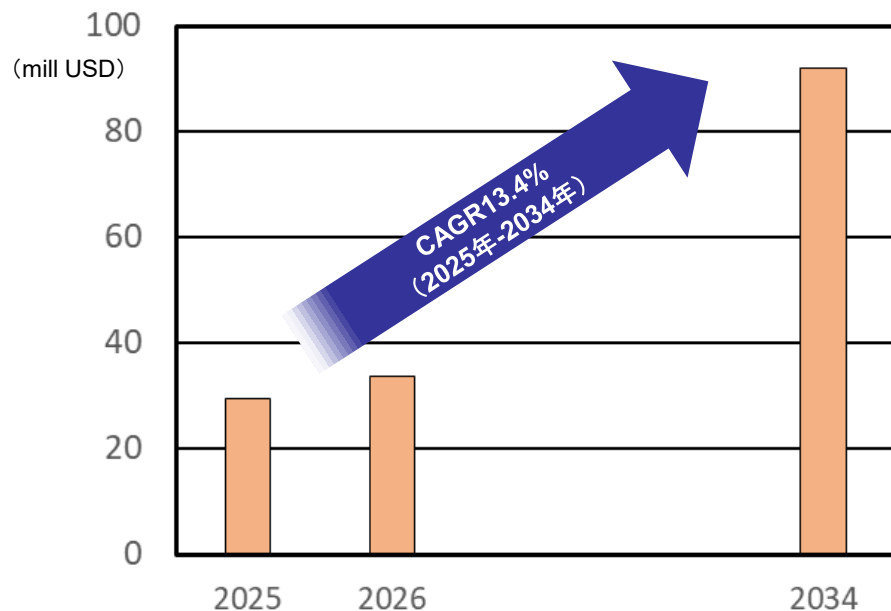


ブリリアンカットの宝石

ラボグロウンダイヤモンド市場は今後も急速に拡大し、天然ダイヤモンドをリプレース

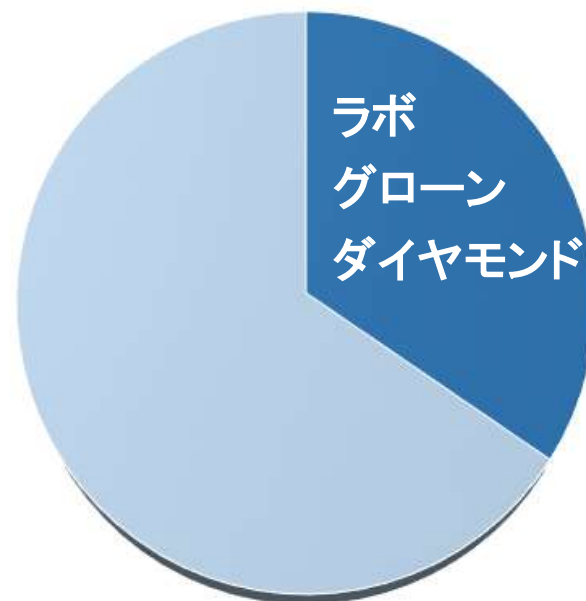
LGD市場の推移

- ◆ LGD市場は2025年から2034年までCAGR13.4%で急速に拡大する見通し



LGDの現在の流通量比率

- ◆ LGDはダイヤモンド宝石市場における流通量の34.5%以上との推定



出典: Fortune Business Insight;
Lab Grown Diamonds Global Market Report 2026

LGDビジネス分野の外部環境

◆ 業界の新陳代謝が加速している

LGDの販売量は依然として早いスピードで拡大している。特にインドでは、新規企業の設立や設備増強が進んでおり、生産能力は拡大している。採算性の悪化から、一部企業の倒産が発生し、生産停止が出ている。

◆ 製品の価格低下は次第に鈍化

価格の低下は進んでいるものの、低下のペースは鈍化している。大型品の価格は大きく下がってはいない。

◆ LGDの多様化が始まっている

カラーダイヤモンドや大型品など、これまでにない宝石が出ている。

◆ 種結晶ユーザーの開拓は進展した

当社種結晶が高品質であることは、インドのユーザーにとっては公知。大型種結晶が求められることには変わりがない。

◆ 天然ダイヤモンドビジネスはLGDの台頭で困難な状況

インドの天然ダイヤモンドの加工業者がLGDビジネスへと転換する例が多数見受けられる。米国等ではLGDの販売割合が増加していることに対応していると見られる。

宝石、宝飾品の製造・販売の 取り組み状況と今後の進め方

- ◆2年前から目指した製造・販売体制の構想は、計画の遅延や販売の不振から、全体を見直しを行うこととした。SFDを2026年3月31日でEDPが吸収合併、SFD Antwerpは休眠状態とし、今後の進め方を検討している。
- ◆SFD Indiaは計画していた種結晶の在庫販売ができない状況となり、種結晶販売の仕方と、原石加工の進め方を検討している。
- ◆宝石及び宝飾品の国内販売は、サプライチェーンの構築を進めているが、Japan Made Diamondをブランド化する方向で販売先との交渉を行う。特に、国内販売のECサイトの国内構築を急ぐ。

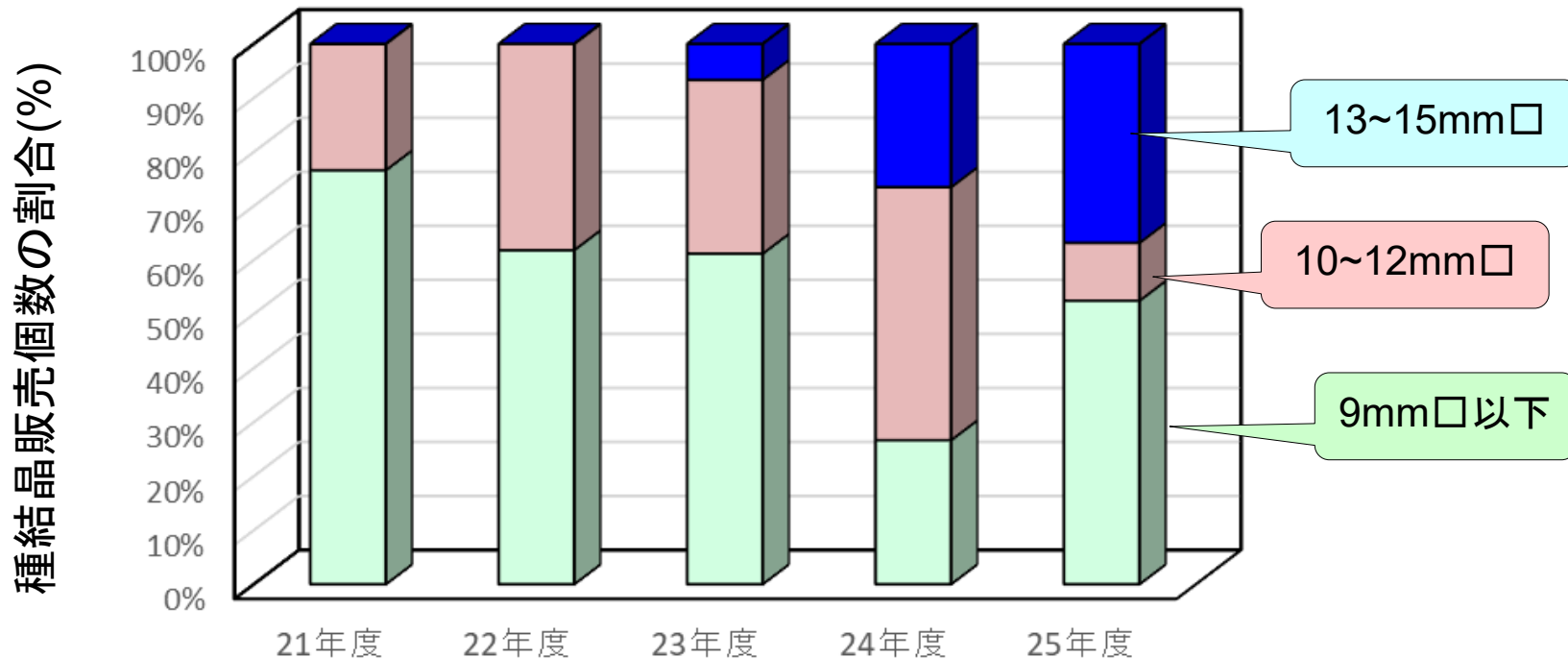
当社の種結晶ビジネスの状況

インド顧客は大型種結晶からの複数ルース製作方式に転換

- 当社が得意としてきた小型種結晶の販売は、難しくなった。高品質であることが必ずしもアピールポイントにならなかった。

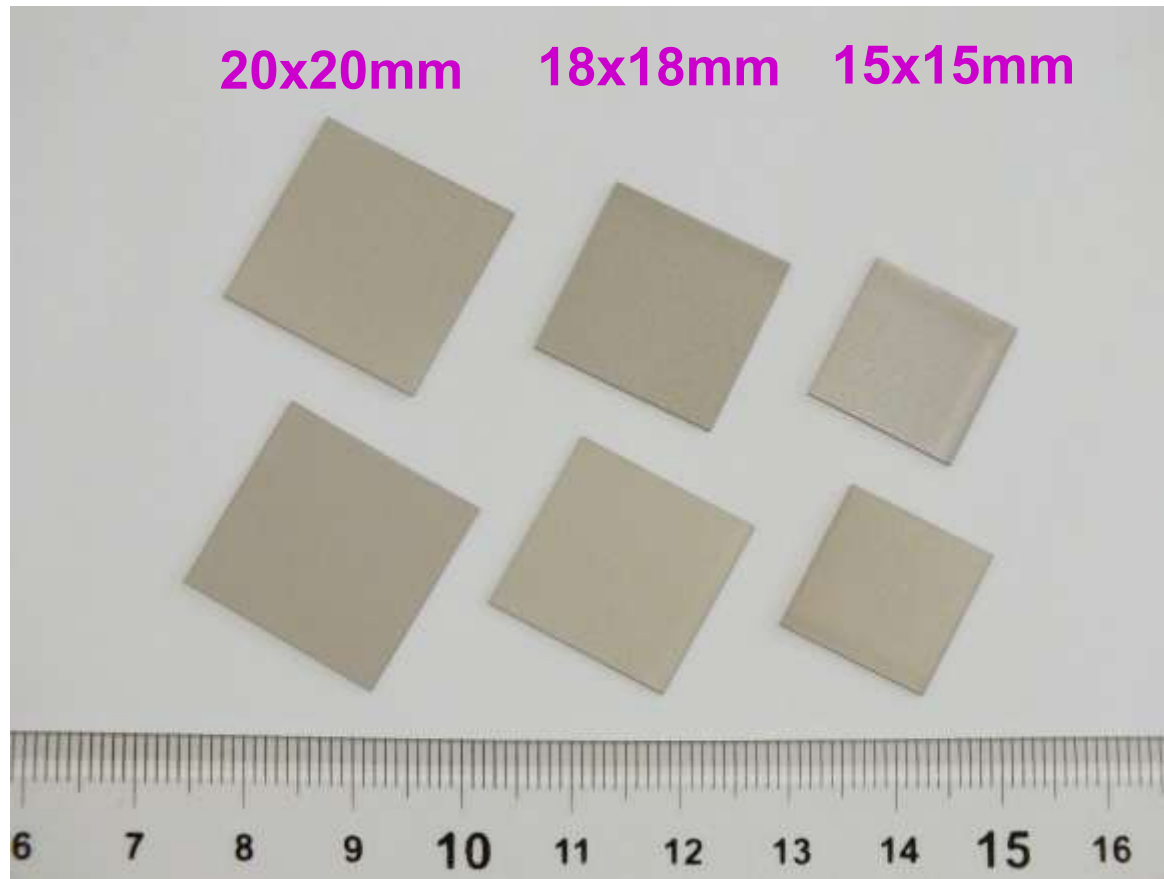
大型宝石への移行が進み、当社の大型種結晶販売は増加傾向

- 最大の大きさの15x15mm種結晶の販売数量が拡大してきた。しかし、製造容量が十分でなく、売上は限定。
- 16x16mm以上の大型種結晶への要求が強い。



大型種結晶を発売しました

当社は2026年5月13日に、16x16mm～20x20mmの
大型種結晶を発売しました。



ラボグロウンダイヤモンド分野の ビジネスの進め方

- ◆2026年5月13日に16x16～20x20mmの大型種結晶を発売し、インドを中心に積極的に販売する。
- ◆宝石の販売体制の確立を急ぐ。ルースと宝飾品の製作サプライチェーンを構築し、販売についてはJapan Made Diamondのブランド化を目指す。

- ☆ 宝飾店(企業)との提携による新商品開発
- ☆ 当社の大型結晶を生かす新規デザイン
- ☆ EDPの多様な技術使った新たなコンセプト作り
- ☆ ECも活用して積極的な販売

EDPグループの長期的な方針

創業の目的：優れた物性を持つダイヤモンドを様々な分野で利用する

外部環境：ダイヤモンドデバイス開発の急速な進展/LGD市場の安定成長

EDPグループの強み：①世界最高の技術力 ②大型単結晶保有 ③ダイヤ企業としての知名度

業界No.1を目指して：新市場創成型ベンチャーとしてリスクに果敢に立ち向かう
リーディングカンパニーとして業界標準確立、ISO取得へ挑む

中期経営計画の策定を急ぐ

◆ ダイヤモンドデバイス実用化に対応

大型ウエハの開発で市場を創成
各種デバイスに必要な素材開発
関連企業との連携強化

◆ 人工宝石市場の拡大に遅れない

当社の基盤技術を生かした製品展開
製造～販売のサプライチェーン構築
Japan Made Diamondをブランド化